

[成果情報名] 果肉が黄色で果心が赤く糖度が高いキウイフルーツ「紅妃」の特性

[要約] キウイフルーツ「紅妃（こうひ）」は10月中下旬に成熟し、「ヘイワード」より成熟期が早い。果実重は小さいが、果肉色は黄で果肉の種子周囲が赤く糖度がとても高い。

[キーワード] キウイフルーツ、紅妃、果肉色、高糖度

[担当] 農林技術開発センター・果樹研究部門・ビワ落葉果樹研究室

[連絡先] 電話（代表）0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

県内のキウイフルーツはほとんどが「ヘイワード」で果肉が緑色である。近年は果肉色が黄で糖度が高い品種が流通しており、人気が高い。そこで県内で栽培が可能な黄肉品種や早生品種を試作し、県内における適応性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「紅妃」の樹勢は「ヘイワード」と同等の強、枝の発生は中程度で、花芽の着生は多である（表1）。
2. 果形は倒卵型で果皮色は緑褐色、毛じは極く少なく、果肉色は果皮周辺部がやや緑で果肉内部は黄、種子周囲は赤で特徴がある（表1、図1）。
3. 開花期は「ヘイワード」より約20日早く、成熟期は「ヘイワード」より約20日早い。果実重は「ヘイワード」よりかなり小さく、60～70gである。収穫時の糖度及び追熟後の糖度は「ヘイワード」より4～5度高く、酸含量は0.5～0.6g/100mlと低く、食味はとても良い（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「紅妃」はキウイフルーツ協会が中国より導入し、静岡県的小林利夫氏が選抜した系統である。
2. 「紅妃」はエチレン処理をしなくても追熟は容易であるが貯蔵性は低い。
3. 「紅妃」は開花期が早く、既存の雄品種とは開花期が揃わないため受粉用の花粉を準備しておく必要がある。

[具体的データ]

表1 樹体の特性及び果実特性

品種	樹勢	枝の発生	花芽の着生	果形	果皮色	毛じの密度	果肉色
紅妃	強	中	多	倒卵	緑褐	極粗	黄緑(赤)
〜イワード	強	中	多	俵型	緑褐	密	緑

表2 生育相および果実特性

品種	年度	満開期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟日数 (日)	果実重 (g)	糖度 (Brix)		酸含量 (g/100ml)
						収穫後	追熟後	
紅妃	2008	5. 2	10.20	171	72.3	11.5	17.8	0.49
	2009	4.22	10.15	176	63.2	9.8	19.8	0.61
〜イワード	2008	5.21	11.11	174	134.6	7.4	13.8	1.21
	2009	5.12	11. 4	176	120.8	6.8	14.5	1.30

注) 「〜イワード」は2008年、2009年とも満開約30日後に濃度10ppmで果実をフルメット浸漬し、満開約30日後及び約60日後に主幹へ環状剥皮を行った。



図1 「紅妃」の果実

[その他]

研究課題名：特定果樹の栽培方法

予算区分：県単

研究期間：1997～2009年度

研究担当者：田中 実、松浦 正、中里一郎